

# WISSEN

No.15

2020年度の学生ボランティアによる広報誌「WISSEN」をお届けします。  
2020年度は学生ボランティア 3名で活動しました。  
この広報誌「WISSEN」では、  
学生ボランティアの活動をご紹介します。

オンラインミーティングの様子



## 2020年度の活動

2020年度は、コロナウイルスによって社会全体が大きく変動しました。  
それに伴い、ボランティアの活動も全面オンライン化し、  
従来とは異なるかたちでの活動となりました。  
これまでとは違う環境の中でどんな活動ができるのか、  
ボランティア1人1人が考え模索する1年となりました。

# WISSEN

去年から今年にかけては、新型コロナウイルスが猛威を振るい、世界的な感染拡大へと発展しました。

ボランティア活動、もとより大学にも満足に行けない中でも月1回のオンラインミーティングを通して「この限られた中で何ができるのだろうか」とボランティア一同が考えてきました。

今年の活動と言うと、ボランティアスタッフ1人1人がWISSENを書くということに尽きると思います。

## 今年度の活動

### おすすめこーなーやで

『fukushima50』 周木律  
今から10年前の3月11日。  
マグニチュード9の巨大地震と巨大津波が東日本を襲った。その時の福島第一原子力発電所内(通称・イチエフ)の様子を描いた作品。津波によって原子炉内のすべての電源が喪失し、暴走を始めたイチエフ。原子炉内の核燃料(発電の際の燃料)は非常に高温になる為、常に冷却水を注入しなければならないが、それが止まると核燃料自身の熱で核燃料が溶け出す炉心溶融(メルトダウン)が起ってしまう。この冷却水を注入することが電源が喪失したことで出来なくなってしまった。このまま暴走を止められなければ、放射能によって東日本一帯は住めなくなってしまう。そんな中で暴走を止めようと必死に戦った方々を海外メディアは『fukushima50』と呼んだのである。

今年度は限られた活動範囲の中で思うような活動ができなかったのは事実ですが、WISSENを1人1人が書けるのは今年度の活動の中で一番の喜びでなのではないかと考えています。

### 感想とボランティアをやってみてよかったこと

今年度は誰もが本当に特殊な年度になったと思います。外出を憚られ人と会うこともなるべく避け大学へも思うように行けない日々の中で、このボランティア活動は私の数少ない楽しみでありました。図書館のボランティアは同じような趣味を持つ同級生、先輩又は後輩とも繋がることのできる場所であると思います。外に出ることができないので家での時間が増え、ますます読書量が増えたように感じます。しかし大学の図書館を含む公共図書館に行くにも今は一苦勞です。本はたくさん読みたいのに中々図書館に行けないもどかしさは筆舌に尽くしがたいものがあります。早く通常の生活に戻り、ボランティア活動が思い切りできる日を願っています。

### ボランティア募集中

このWISSENを手に取り読んでくださってありがとうございます。文字通りボランティア募集中です。ボランティア活動を頑張ると最後に良いことが待ってるかも。1ミリでもやってみようと思ったら、あらゆる力を総動員して図書館カウンターへレッツゴー。今、応募しないと後で後悔するかもしれません。

# WISSEN

・企画の提案 今回は来年度に向けて企画をいくつか提案しました。現在も検討中のものが複数ありますが、4月・5月あたりにさらに現実的な具体案を考えていきたいです。

・ミーティングの実施 ZOOMにて1か月に1回ミーティングを行い、各々が考えてきた企画を提案しました。また以前から考えられてきた企画・提案に対して改善点や追加すべき点について述べました。かなり積極的な意見交換が行えました。

今年度の活動

## おすすめ本のこーなー

### 『田舎教師』 田山花袋

この作品は実在する日記と人物をもとに描かれました。自然主義の文学である人間のあるがままの姿を描いた田山花袋の描写は素晴らしいです。

今年入学する新入生にも、新しい気持ちで学年を進んだ在校生にも共通して訪れる『新生活』の心を描いていると感じられるでしょう。

### 「たんぽぽ娘」 ロバート・F・ヤング

13作品の短編集が書かれた作品集になっています。

SF小説と言えば重厚なイメージがあると思われそうですが、さっくりと読みやすく読書が苦手な人にぜひとも読んでほしいと思います。

・ポスターの試作 考案した企画に基づいて個人でポスターを制作しました。

実際に作成することにより、具体的なイメージを浮かべやすくなると考えられます。来年度に向けてイベントとして実施できるように企画の内容を詰めていきたいです。

## 感想とボランティアをやってみてよかったこと

・感想 今年度はすべてZOOM上のミーティングになり、慣れないことも多々ありましたが、その中でもお互いの表情を読み取り、意見を積極的に言う事を意識しました。特に、あらかじめ言うべきことを準備しておくという当然のことを改めて意識すると自分が言いたいことの要点をしっかりと伝えられたと思われます。

・ボランティアをやってみてよかったこと 遠慮せずに大学に通えない状況下でも図書館と交流できるという安心感がありました。現在はほとんどリモート授業になってしまっていますが、ボランティアとして活動できるという安心感と楽しさがあります。

図書館ボランティアはとても楽しく、積極的な意見を交換できる場です。

図書館について力になりたい、図書館をもっと盛り上げたいと思う方ぜひ皆さんもボランティアに参加してみてください！

(人文学部・3年次生)

# WISSEN

どうもWISSENを手にとっていただきありがとうございます。

2020年度は、大変な年となりました。

神戸学院大学図書館ボランティアも、この世界的な災害の影響を受けながらの活動となりました。私は今年入学してオンラインの授業の傍ら、時々図書館を訪れていました。図書館には前の先輩方が作った本のポップたちが色とりどりに並んでいます。私はこの光景を目にして、自分もやってみたいと感じレファレンスカウンターに足を運んだのでした。今年度の活動はほかの方も書かれている通りzoomを使ってメンバーと職員の方とで、この状況下でどのような活動ができるのかということをお話し合いました。

今年度の活動

## おすすめ本のこーなー

「世界ことわざ比較辞典」

日本ことわざ文化学会編

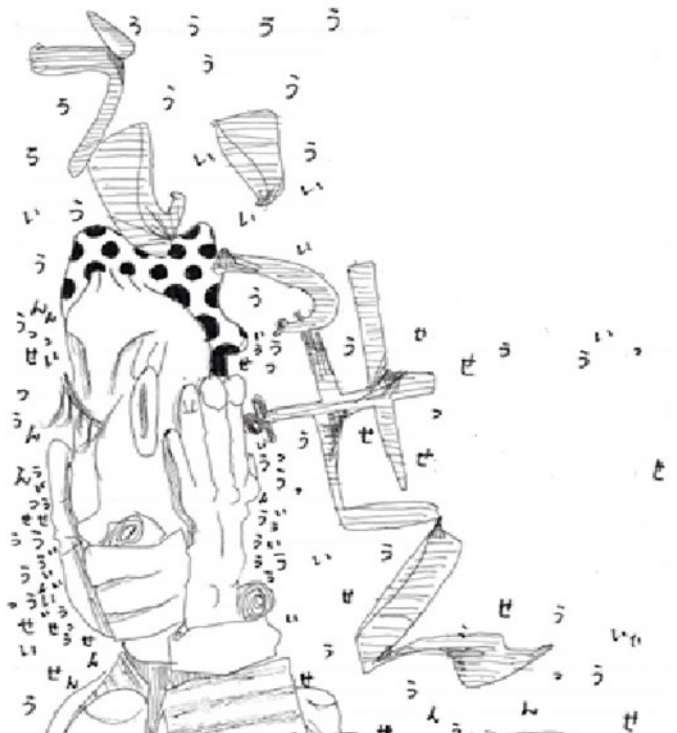
みなさん、ことわざと聞いて何を思い浮かべますか？この本の冒頭には、このような言葉があります。

「ことわざとは何か？それは先人からの知恵である。」この本も図書館にありますので、その深い世界をのぞいて人生に活かしてください。

「自然地理学辞典」

小池 一之, 山下 脩二他

みなさん、地理の授業はとっていますか？私は、自分が立っている場所について調べるこの学問に、興味があります！この辞典はこの学問に関する用語を、各地の著名な教授たちが見開き2ページのあまり長くない記事で紹介しており、私のような初学者にも読み切れ、分かりやすい文章で書かれています。好き！



2020年度  
主な活動

ZOOMでの  
月1回ミーティング

2021年度に向け  
イベント企画

2020年度  
活動遍歴

11月から  
ボランティア  
募集再開

メンバーが  
徐々に集まり、  
12月から  
本格始動！

学生ボランティア  
おすすめ コーナー

田舎教師



「田舎教師」田山花袋作  
有瀬館 本館4階文庫・新書  
B-31/021/2 岩波文庫シリーズ

自然地理学  
事典



「自然地理学事典」  
小池一之 [ほか] 編集  
有瀬館 本館5階2室  
450/SHI



「世界ことわざ比較辞典」  
日本ことわざ文化学会編  
有瀬館 新館2階B  
388.8/SEK



「たんぽぽ娘」  
ロバート・F・ヤング著  
ポーアイ館 2階西  
933.7/YOU/T

「Fukushima 50  
=フクシマフィフティ」  
若松節朗監督  
前川洋一脚本  
ポーアイ館 2階視聴覚  
Z778/FUK



## 編集後記

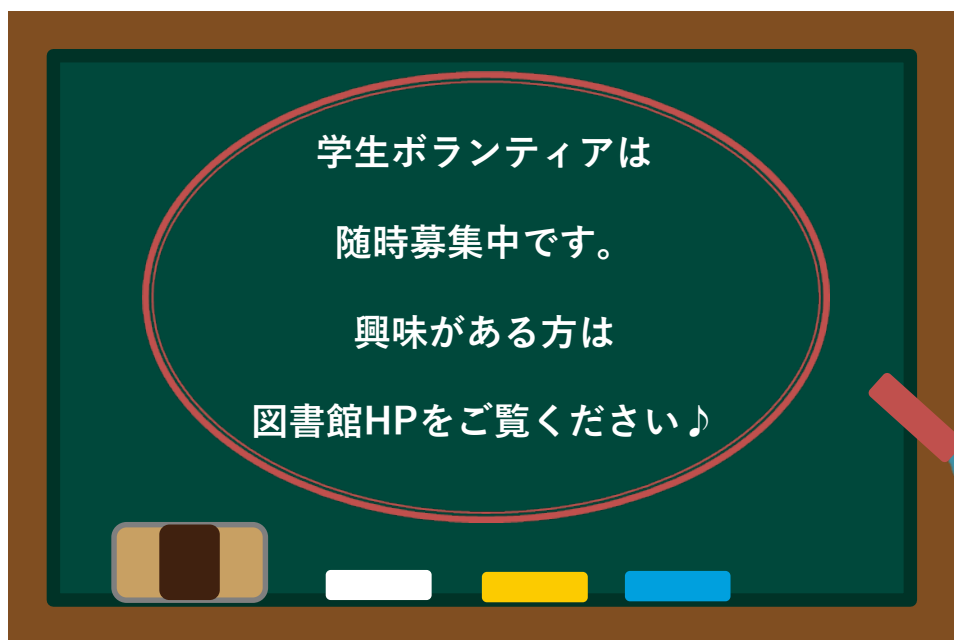
2020年度は環境が大きく変わり、色々と活動に制限があったにもかかわらず、ボランティア1人1人が精力的に活動していました。スタッフとしても、とても充実した1年となりました。

図書館での活動を通して、皆さんに何か得られるものがあれば嬉しく思います。

学生ボランティアのみなさん、1年間お疲れ様でした。

2021年度もぜひ学生ボランティアにご参加ください。

(スタッフより)



発行日	2021年 6月 1日
編 集	2020年度 学生ボランティア
発 行	神戸学院大学 有瀬図書館
印 刷	神戸学院大学 有瀬図書館